



地方創生に向けた取り組み

写真文化首都「写真の町」東川町

松岡 市郎

北海道東川町長

3つの道がない!?

「国道、鉄道、上水道」と言う3つの道はないが、「北海道」と言う大きな、



大雪山旭岳 (2291m)

未来に向かって夢と希望が持てる道がある。北海道で3つの道がないと言うと、「馬と鹿」しかないような鄙びたところをイメージするかもしれない。「東川町」は、馬や鹿よりも人々の数が多く、人口が微増している魅力と元気がある町の一つとなっている。

元気がある「正体」とは一体何か

第1にニンニク一番がある。数字で書くと2291(ニンニクイチ)で、ニンニク一番と言う。これは北海道最高峰大雪山旭岳(2291m)の高さである。東川町に移住する人たちが異口同音に「大雪山の景観、山並みが一望できる」のが魅力だと言う。私のように大雪山を毎日、見て育ったものにはごく当たり前の景観であっても、移住者

にとつては格別な価値を有しているようだ。そうかと思いつながら、新築した東川小学校体育館の2階テラスから大雪山連峰を眺望すると、言葉を失うほど壮大かつ優美で素晴らしいことに気付く。

私たちは大雪山から多くの恵みを受けている。毎年9月中旬、天から素晴らしい贈りものが届けられる。大雪山に降る雪で、故中谷宇吉郎博士は「雪は天から送られた手紙」と雪の結晶を表現している。同じ形をした結晶はなく、どれも六角形で神秘的と言いつ、わくわくする感覚で雪の結晶を観察したことであろう。この雪がエネルギー豊富な雪解け水となり、田畑を潤し、ミネラル分豊富な最高に美味しいお米や野菜を生み出している。

また地下浸透した伏流水は住民の飲

み水で、全戸がこの伏流水を地下から汲み上げて使っている。上水道がなく、風呂、流し、トイレ、洗濯など日常生活のすべての水がナチュラルミネラルウォーターと言う贅沢な暮らしは、大都市では想像もできない大きな魅力である。

第2に国道や鉄道はないが、車では旭川空港から10分、JR旭川駅から20分ほどで中心市街地に到着する。幾つかある旭川市の総合病院まで車で概ね30分以内という距離にある。また人気で評判のお洒落なカフェやレストランが多い。このような社会条件は、北海道でも最高であると思っている。

第3に写真の町宣言である。1985年、先人は写真の町宣言を行い、写真の町条例を制定している。当時は一村一品運動が展開されている最中、「もの」ではなく「文化」を選択した当時の首長と議会の英断は素晴らしい。「何で写真なのだ」見ても分からない「住民の暮らしの向上に・・・」など町の内外から多様な声があった。しかし臆することなく、持続してきたのは写真の町条例があったからだと考えている。この条例の目的には「写真文化と国際交流を通じて、世界に開かれた自

然と文化が調和する潤いと活力ある町づくり」を進めると明記されている。

この開放感のある条例が、国内はもとより、世界各地からやってくる人々を温かく迎えている。外からの人々に対する抵抗感、拒絶感があったのでは人口の維持、増加には至らない。多様な感覚を持つている人々とお互いに尊重し合い、寛容な心を持って暮らすという意識の共有が、魅力と元気がある大きな要因になっている。

写真文化首都宣言と大都市との連携

2014年3月、写真の町を宣言し30年目を迎えるに当たり、国内外に向かって写真文化首都を新たに宣言した。東京一極集中から地方とのバランスが図られる均衡ある発展に配慮し行ったもので、小さな町の大きな宣言でもある。その証としてアジアを中心とした高校生の写真文化交流や町立日本語学校の開設へと進化している。

しかし、小さな町が持続し、繁栄して行くためには大都市との連携を抜きには不可能に近い。政治経済の首都は「東京」であり、写真文化の首都は「東川」、と同じ「東」で始まり、東京と東川との連携を私たちは「東東連携」

(トントン連携)と呼び、これが上手く進めば、これこそが「東東拍子」(トントン拍子)だと期待している。

平成京づくりに向かって出合いを大切に

東京のあるデザイナーが野外での写真展のため支援に來られ、キトウシ山(457m)から先人が拓いた町づくりの姿を見て、「素晴らしい景観だ」「北の平城京」と賛美の表現をしていた。そのとき、ふと私たちが目指しているのは平成の都「平成京」だ、との思いがよぎった。

人口が8000人程度は職員と住民との距離も近く、お互いに顔が見える関係が維持できている。写真の町を宣言したことにより、異業種の方々の出合いが圧倒的に多くなり、感動があり、何かを生み出す力になっている。「出合いは感動、絶景、実力」などと表現されているが、出合いは「新しいものを生み出す刺激」となり、それが小職も含めて職員の刺激とやる気へと意識が変化し、成長できている。また住民活動を支える大きな力になっている、と感じる。写真文化首都は平成の京づくりでもある。さあ、今日も新たな出合いが始まる。